

実数  $a_1, a_2, b_1, b_2$  に対して成り立つ次の不等式 (コーチー・シュワルツの不等式; Cauchy – Schwarz inequality) を, 以下の手順で示そう.

$$(a_1 b_1 + a_2 b_2)^2 \leq (a_1^2 + a_2^2)(b_1^2 + b_2^2) \quad (1)$$

i)  $n$  次元数ベクトル  $\vec{a}, \vec{b}$  と任意の実数  $\lambda$  に対して,  $\vec{c}$  を

$$\vec{c} := \vec{a} + \lambda \vec{b}$$

と定める. このとき

$$|\vec{a}|^2 + 2\lambda \vec{a} \cdot \vec{b} + \lambda^2 |\vec{b}|^2 \geq 0 \quad (2)$$

が成り立つことを示せ (ヒント:  $|\vec{c}|^2 \geq 0$  が成り立つことを用いよ).

ii) (2) 式の左辺を  $\lambda$  についての 2 次式だとみて  $f(\lambda)$  と書くと, (2) 式は  $f(\lambda) \geq 0$  と表せる. 任意の実数  $\lambda$  に対して  $f(\lambda) \geq 0$  が成り立つための条件を  $\vec{a}, \vec{b}$  を用いて表せ.

iii)  $n = 2$  とする. 実数  $a_1, a_2, b_1, b_2$  を用いて, ベクトル  $\vec{a}, \vec{b}$  を

$$\vec{a} = (a_1, a_2), \quad \vec{b} = (b_1, b_2)$$

と陽に表すことによって, (1) 式が成り立つことを示せ. 等号が成立するのはどのような場合か.

i) ただ計算すればよい.

$$0 \leq |\vec{c}|^2 = |\vec{a} + \lambda \vec{b}|^2 = |\vec{a}|^2 + 2\lambda \vec{a} \cdot \vec{b} + \lambda^2 |\vec{b}|^2$$

より従う.

ii)  $f(\lambda) = |\vec{b}|^2 \lambda^2 + (2\vec{a} \cdot \vec{b})\lambda + |\vec{a}|^2$  であるから,  $f(\lambda) \geq 0$  が常に成り立つことは, 放物線  $y = f(\lambda)$  が  $\lambda$  軸と高々 1 つの共有点をもつこと, すなわち  $\lambda$  についての 2 次方程式  $f(\lambda) = 0$  の判別式  $D$  に対して  $D \leq 0$  が成り立つことと同値である. これを  $\vec{a}, \vec{b}$  で表して,

$$D = (2\vec{a} \cdot \vec{b})^2 - 4|\vec{b}|^2|\vec{a}|^2 = 4(\vec{a} \cdot \vec{b})^2 - 4|\vec{a}|^2|\vec{b}|^2 \leq 0$$

整理して,

$$(\vec{a} \cdot \vec{b})^2 \leq |\vec{a}|^2|\vec{b}|^2$$

を得る.

iii) 問題文に従って  $\vec{a}, \vec{b}$  を表すと,

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = a_1 b_1 + a_2 b_2, \quad |\vec{a}|^2 = a_1^2 + a_2^2, \quad |\vec{b}|^2 = b_1^2 + b_2^2$$

と書けるので, これを ii) で得た結果に代入すれば, コーシー・シュワルツの不等式を得る.

等号が成立するのは  $D = 0$ , すなわち  $f(\lambda') = |\vec{c}|^2 = 0$  となる実数  $\lambda'$  が存在するときである. これは  $\vec{c} = \vec{a} + \lambda' \vec{b} = 0$ , すなわち  $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  が線形従属であることと同値なので, (1) 式の等号は 2 つのベクトル  $\vec{a}, \vec{b}$  が線形従属である場合, かつその場合に限り成立する.